



国際医療福祉大学熱海病院 内科専門研修プログラム

内科専門医研修プログラム・・・・・・・・・・P1

理念・使命・特性・・・・・・・・・・P2

専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・P13

修了判定・・・・・・・・・・P15

専攻医研修マニュアル・・・・・・・・・・P20

指導医マニュアル・・・・・・・・・・P54

各年次到達目標・・・・・・・・・・P57

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

1.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、静岡県熱海市にある国際医療福祉大学熱海病院を基幹施設として、静岡県東部地区の医療圏、近隣医療圏にある連携施設に加えて異なる県域での内科専門研修を経て熱海・伊東医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように修練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定した研修を行えるプログラムにて将来の地域医療を支える内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間(基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

使命【整備基準 2】

- 1) 内科専門医として、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高め、地域住民、広く日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、静岡県熱海市の国際医療福祉大学熱海病院を基幹施設として、静岡県富士医療圏、隣接の神奈川県医療圏を中心に、東京都区中央圏と千葉県、栃木県北医療圏をプログラムとしての守備範囲とし、地域の実情に合わせた実践的な医療、都市型、地域型医療も双方行えるように修練されます。研修期間は原則基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間です。
- 2) 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、チーム医療の実践を通じて個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である国際医療福祉大学熱海病院での最初の1年間で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で20疾患群、60症例以上を経験し、そして、基幹施設で不足する疾患群を2年目に連携施設で経験し、2年次での経験目標である45疾患群、120症例以上をクリアし専攻医2年修了時点で、日本内科学会専攻医登録評価システム(仮称)に登録できるようにします。指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。
- 4) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験する意味も含めて、原則として1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる幅広い役割を実践します。
- 5) 専攻医3年修了時で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医): 地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医: 内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。災害時への訓練も施設内で実践します。
- 3) 病院での総合内科(Generality)の専門医: 病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。

- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist: 病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科 (Generalist) の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは国際医療福祉大学熱海病院を基幹病院として、地域性の異なる多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか[整備基準: 13～16, 30]

- 1) 研修段階の定義: 内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修 (専攻医研修) 3 年間の研修で育成されます。
- 2) 専門研修の 3 年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門医研修カリキュラム」(別添) にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 3) 臨床現場での学習: 日本内科学会では内科領域を 70 疾患群 (経験すべき病態等を含む) に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER 以下、「J-OSLER」とする) への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を uptodate に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。(別表 1 参照)

○専門研修 1 年

- ・ 症例: カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。
- ・ 技能: 疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- ・ 態度: 専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修 2 年

- ・ 疾患: カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群以上を(できるだけ均等に)経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」に登録することを目標とします。

- 技能:疾患の診断と治療に必要な身体診察, 検査所見解釈, および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします.
- 態度:専攻医自身の自己評価, 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います. 専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修 3 年

- 疾患:主担当医として, カリキュラムに定める全 70 疾患群, 計 200 症例の経験を目標とします. 但し, 修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群, そして 160 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができる)とします. この経験症例内容を専攻医登録評価システムへ登録します. 既に登録を終えた病歴要約は, 日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)による査読を受けます.
- 技能:内科領域全般について, 診断と治療に必要な身体診察, 検査所見解釈, および治療方針決定を自立して行うことができるようにします.
- 態度:専攻医自身の自己評価, 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います. 専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします. また, 基本領域専門医としてふさわしい態度, プロフェッショナリズム, 自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し, さらなる改善を図ります.

＜内科研修プログラムの週間スケジュール例＞

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科 朝カンファレンス〈各診療科 (Subspecialty)〉					担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 日当直 / 講習会・学会参加など	
	入院患者診療	入院患者診療 / 救急患者オンコール	入院患者診療	内科合同カンファレンス	入院患者診療		
	内科外来診療 (総合)		内科外来診療〈各診療科 (Subspecialty)〉	入院患者診療	内科検査〈各診療科 (Subspecialty)〉		
午後	入院患者診療	内科検査〈各診療科 (Subspecialty)〉	入院患者診療	入院患者診療 / 救急患者オンコール	入院患者診療		
	内科入院患者カンファレンス〈各診療科 (Subspecialty)〉	入院患者診療	抄読会	内科入院患者カンファレンス〈各診療科 (Subspecialty)〉	講習会 症例検討会		
		地域参加型カンファレンスなど	内科合同カンファレンス		CPC など		
	担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など						

なお、専攻医登録評価システムの登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

- ① 専攻医 1 年目から初診を含む外来 (1 回／週以上) を通算で 6 ヶ月以上行います。
- ② 当直を経験します。

4) 臨床現場を離れた学習

①内科領域の救急、②最新のエビデンスや病態・治療法についての抄読会やセミナーを開催し、それを聴講し、学習します。内科系学術集会、JMECC (内科救急講習会) 等においても学習します。

5) 自己学習

[研修カリキュラム](#)にある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書室が利用できます。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。臨床系大学院へ進学しても専門医資格が取得できるプログラムも用意されています(項目8を参照)。

7) Subspecialty 研修

後述する”各科重点コース”において、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。

Subspecialty 研修は 3 年間の内科研修期間の、1 年もしくは 2 年間について内科研修の中で重点的に行います。大学院進学を検討する場合につきましても、こちらのコースを参考に後述の項目8を参照してください。

3.専門医の到達目標項目 2-3)を参照[整備基準:4, 5, 8~11]

1) 3年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

- 1) 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること。
- 2) 日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」へ症例(定められた 200 件のうち、最低 160 例)を登録し、それを指導医が確認・評価すること。
- 3) 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
- 4) 技能・態度:内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、[研修手帳](#)を参照してください。

2) 専門知識について

[内科研修カリキュラム](#)は総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の13領域から構成されています。国際医療福祉大学熱海病院には10の内科系診療科があり、救急疾患は各診療科や救急科によって管理されており、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらにグループ施設の国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学塩谷病院に富士市立中央病院、JCHO湯河原病院、さらに伊豆南クリニックを加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、地域または県外病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

4.各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準:13]

1) 朝カンファレンス・チーム回診

朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

2) 総回診:受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

3) 症例検討会(毎週):診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。

4) 診療手技セミナー:

例:内視鏡シミュレーターや心臓エコーなどを用いて診療スキルの実践的なトレーニングを行います。

5) CPC:死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討します。

6) 関連診療科との合同カンファレンス:関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。

- 7) 抄読会・研究報告会(毎週):受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行います。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。
- 8) Weekly summary discussion:週に1回、指導医との面談を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。
- 9) 学生・初期研修医に対する指導:病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

5.学問的姿勢[整備基準:6, 30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います(evidence based medicine の精神)。最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

6.医師に必要な、倫理性、社会性[整備基準:7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。

国際医療福祉大学熱海病院(基幹病院)において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において、地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全ての専攻医がその経験を積みます。

連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせを指します。なお、連携病院へのローテー

ションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献します。

基幹施設、連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。

7.研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方[整備基準:25,26,28,29]

国際医療福祉大学熱海病院（基幹病院）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において、地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全ての専攻医がその経験を積みます。

連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせを指します。施設内で開催されるセミナーへも参加します。地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し、月に1回、指定日に基幹病院を訪れ、指導医と面談し、プログラムの進捗状況を報告します。

なお、連携病院へのローテーションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献します。

8.年次毎の研修計画[整備基準:16, 25,31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース, ①内科標準コース, ②サブスペシャリティ重点コース, を準備しています. コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialty が未決定, または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科標準コースを選択します. 専攻医は3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを3ヵ月毎にローテートします. 将来の Subspecialty が決定している専攻医は1年型または2年型重点研修コースを選択し, 希望診療科を原則として1年間もしくは2年間研修し, 連携施設および基幹施設内で専門研修に必要となる症例を研修します. いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており, 専攻医は卒後5~6年で内科専門医, その後 Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

① 内科標準コース

内科(Generality)専門医は勿論のこと, 将来, 内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます. 将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあり得ます. 内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり, 専攻医研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします. 原則として3ヵ月を1単位として, 1年間に4科, 3年間で延べ8科を基幹施設でローテーションします. 2年目に地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します. 原則として1年間ローテーションします(複数施設での研修の場合は研修期間の合計が1年間となります). 研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上, プログラム統括責任者が決定します。

② サブスペシャリティ重点研修コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです. 1年型と2年型で希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います. この期間, 専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から, 内科医としての基本姿勢のみならず, 目指す領域での知識, 技術を学習することにより, 内科専門医取得への Motivation を強化することができます. 研修2年目には, 連携施設において内科専門研修として必要となる各領域を研修します. 特

に基幹施設で充足していない症例を重点的に経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがありますが、あくまでも希望する Subspecialty 領域を重点的に研修することが主体であり、1 年間または 2 年間で Subspecialty の重点期間に当てていきます。

また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決めて頂きます。

9.専門医研修の評価[整備基準:17～22]

① 形成的評価(指導医の役割)

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

研修管理事務局は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

② 総括的評価

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

プログラムの修了後に実施される内科専門医試験(毎年夏～秋頃実施)に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ(病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など)から、接点の多い職員 5 名程度を指名し、毎年 3 月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

④ ベスト専攻医賞の選考

プログラム管理委員会と総括責任者は上記の評価を基にベスト専攻医賞を専攻医研修終了時に 1 名選出し、表彰状を授与します。

⑤ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

10.専門研修プログラム管理委員会[整備基準:35～39]

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を国際医療福祉大学熱海病院(基幹施設)に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

2) 専攻医外来対策委員会

外来トレーニングとしてふさわしい症例(主に初診)を経験するために専攻医外来対策委員会を組織し、外来症例割当システムを構築します。未経験疾患患者の外来予定がきたら、スケジュール

調整の上、外来にて診療します。専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めます。

11.専攻医の就業環境(労務管理)[整備基準:40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。

労働基準法を順守し、学校法人国際医療福祉大学の「就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修管理委員会と労働安全衛生委員会等で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12.専門研修プログラムの改善方法[整備基準:49～51]

3ヵ月毎に研修プログラム管理委員会を基幹施設にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジット(ピアレビュー)に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

13.修了判定[整備基準:21, 53]

日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

14.専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと[整備基準:21, 22]

専攻医は所定の申請書を専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に提出してください。プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15.研修プログラムの施設群[整備基準:23～27]

国際医療福祉大学熱海病院が基幹施設となり、国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学成田病院、富士市立中央病院、JCHO湯河原病院、神奈川県足柄上病院、横浜労災病院、横須賀市立市民病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜南共済病院、関東労災病院、平塚市民病院、横浜市東部病院、横浜医療センター、横浜市南部病院、湘南藤沢徳州会病院、秦野赤十字病院、横浜栄共済病院、新百合ヶ丘総合病院を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

16.専攻医の受入数

本プログラムにおける専攻医の上限(学年分)は6名です.

- 1) 国際医療福祉大学熱海病院に後期研修医として勤務した医師は過去3年間で7名で1学年1~4名の実績があります.
- 2) 国際医療福祉大学熱海病院での剖検体数は2020年度10体, 2021年度8体, 2022年度11体, 2023年度10体.
- 3) 経験すべき症例数の充足について

表. 本プログラムにおける診療実績

2016 年実績	入院患者実数(人/年)	参考)外来患者数
消化器内科	1130	14,380
循環器内科	1948	16,581
糖尿病・代謝・内分泌内科	456	19,065
腎臓内科	373	3,956
呼吸器内科	913	6,376
神経内科	440	4,220
血液・膠原病内科	285	代謝・内分泌内科に含む
アレルギー内科	49	総合内科に含む
総合内科	182	1,792
救急科	378	循環器内科に含む
感染症	181	呼吸器内科に含む

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ, 全 70 疾患群のうち, すべてにおいて充足可能でした.

- 4) 専攻医2年目に研修する連携施設・特別連携施設には, 地域連携病院2施設および僻地における医療施設の1施設があり, 専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です.

17.Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、各科重点コースを選択することになります。基本コースを選択していても、条件を満たせば各科重点コースに移行することも可能です。内科専門医研修修了後、各領域の専門医(例えば循環器専門医)を目指します。

18.研修の休止・中断, プログラム移動, プログラム外研修の条件[整備基準:33]

- 1) 出産, 育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 カ月とし, 研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 か月以上の休止の場合は, 未修了とみなし, 不足分を予定修了日以降に補うこととします。また, 疾病による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修中に居住地の移動, その他の事情により, 研修開始施設での研修続行が困難になった場合は, 移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際, 移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19.専門研修指導医[整備基準:36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し, 評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文(症例報告含む)を発表する(「firstauthor」もしくは「corresponding. author」であること)。もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【(選択とされる要件(下記の 1, 2 いずれかを満たすこと)]

1. CPC, CC, 学術集会(医師会含む)などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動(病歴要約の査読, JMECC のインストラクターなど)

※ 但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば、内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系 Subspecialty 専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間(2025 年まで)においてのみ指導医と認めます。

20.専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準:41～48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総合的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回行います。

21.研修に対するサイトビジット(訪問調査)[整備基準:51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

22.専攻医の採用と修了[整備基準:52, 53]

1) 採用方法

国際医療福祉大学熱海病院内科専門研修プログラム管理委員会は、毎年 4 月から専攻医の応募を受付けます。プログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『A大学内科専門研修プログラム応募申請書』(準備未形式の『内科専門研修プログラム応募申請書』(準備中)および履歴書を提出してください。申請書は(1)電話で問い合わせ(0557-81-9171)、(2)e-mail で問い合わせ(kensyu-atami@iuhw.ac.jp)、のいずれの方法でも入手可能です。書類受領後に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果についてはプログラム管理委員会において報告します。

2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の4月1日までに以下の専攻医氏名報告書を、国際医療福祉大学熱海病院研修管理委員会および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。

- 専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年
- 専攻医の履歴書(様式 15-3 号)
- 専攻医の初期研修修了証

3) 研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

国際医療福祉大学熱海病院内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1.研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医):地域において常に患者と接し, 内科慢性疾患に対して, 生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します. 地域の医院に勤務(開業)し, 実地医家として地域医療に貢献します.
- 2) 内科系救急医療の専門医:病院の救急医療を担当する診療科に所属し, 内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な, 地域での内科系救急医療を実践します.
- 3) 病院での総合内科(Generality)の専門医:病院の総合内科に所属し, 内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち, 総合的医療を実践します.
- 4) 総合内科的視点を持った subspecialist:病院で内科系の Subspecialty, 例えば消化器内科や循環器内科に所属し, 総合内科(Generalist)の視点から, 内科系 subspecialist として診療を実践します.

2.専門研修の期間

内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修(後期研修)3年間の研修で育成されます.

3.研修施設群の各施設名

基幹病院:国際医療福祉大学熱海病院

連携施設:国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学三田病院、国際医療福祉大学塩谷病院
国際医療福祉大学市川病院、国際医療福祉大学成田病院、富士市立中央病院、
JCHO湯河原病院、神奈川県足柄上病院、横浜労災病院、横須賀市立市民病院、横浜
市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜南共済病院、

関東労災病院、平塚市民病院、済生会横浜市東部病院、横浜医療センター、済生会横浜市南部病院、湘南藤沢徳州会病院、秦野赤十字病院、横浜栄共済病院、藤沢湘南台病院、町田市民病院、藤沢市民病院、関東中央病院、さがみ林間病院、茅ヶ崎市立病院、国立病院機構横浜医療センター、横須賀市立総合医療センター、新百合ヶ丘総合病院。

各連携施設の概要は以下参照

専門研修連携施設概要

1.(施設名) 国際医療福祉大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国際医療福祉大学病院後期研修医として労務環境が保障されています。 ・安全衛生委員会がメンタルストレスに適切に対処します。 ・ハラスメント防止委員会が学内に整備されています。 ・キャリア支援委員会が女性医師の労働条件や職場環境に関する支援を行っています。 ・敷地内にある院内保育所が利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 18 名在籍しています(下記参照)。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、プログラム管理委員会が連携施設群との連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的開催(2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催または参加しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野(総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会総会・講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
プログラム責任者	<p>武田守彦(循環器センター長、循環器内科 冠疾患部長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国際医療福祉大学病院は東京都と仙台市の丁度中間に位置する栃木県県北地域の那須塩原市にある地域基幹病院です。当院は、二次救急病院、小児救急拠点病院、地域周産期母子医療センターとして救急医療に貢献、認知症診療・リハビリテーション医療の充実、予防医学センターの併設、一次医療から二次医療まで幅広い地域医療を実施する、といった特徴を有しています。また、隣接する介護老人保健施設等とともに複合的な保健・医療福祉ゾーンを形成し、地域の中小病院・診療所・重症心身障害施設等と緊密な診療連携を行っています。</p> <p>本プログラムは、栃木県県北の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として、栃木県県北医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設または東京都・静岡県にある連携施設とで内科専門研修を行うことにより、基本的臨床能力はもとより、地域の医療事情を理解し、その実情に合わせた実践的な医療をも行い、地域保健・</p>

	医療を支える内科専門医の育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 7,363 名 入院患者 3,623 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療とともに、緊密な病診・病病連携を実践することによって、超高齢化社会に対応した地域完結型医療を行っている。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定指導医指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会ステントグラフト 実施施設 など

2.(施設名)国際医療福祉大学三田病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ ※三田病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 7 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています(一部外来症例を含みます)。 ・70 疾患群のうち 57 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>合屋雅彦(副院長、循環器内科部長、不整脈センター部長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国際医療福祉大学三田病院は、東京都中央医療圏の急性期病院であり、栃木・熱海・千葉医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、</p> <p>日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者(年間実数)37,479 名 入院患者(年間実数)6,554 名</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、57 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本循環器学会循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本高血圧学会高血圧認定研修施設</p> <p>など</p>

3.(施設名) 国際医療福祉大学塩谷病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床制度の協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・国際医療福祉大学塩谷病院勤務医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため臨床心理士によるメンタルヘルス相談室を開設しています。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・総合内科専門医が2名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の症例検討会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、血液、消化器、呼吸器、神経、老年及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
プログラム責任者	<p>内海 裕也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院では消化器・呼吸器・神経・血液・循環器領域などの専門医による疾患を診断から治療まで行っています。消化器領域では内視鏡治療を専門として技術の習得ができます。呼吸器領域では肺がん・感染症・肺炎・睡眠時無呼吸などの症例が経験できます。また、急性期医療と在宅医療を繋ぐ役割を担っています。</p> <p>内科専門医として、必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」、治す医療だけではなく「支える医療」、「医療と介護の連携」についても経験できます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 6 名、</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 2 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 1 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 431 名(1ヶ月平均) 入院患者 181 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	<p>呼吸器領域、消化器、神経、血液、循環器疾患などの症例を経験することができます。</p> <p>また、高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。</p>
経験できる技術・技能	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	<p>当院は医師、看護師、介護士、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、MSW による多職種連携を実践しています。質の高いチーム医療における医師の役割を研修します。</p> <p>また、急性期・回復期(回復期リハビリテーション病棟)・慢性期(医療療養病棟)・在宅(訪問看護、訪問リハビリ・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所)施設を有し、切れ目</p>

	<p>のない医療提供連携も研修します。さらには急性期病院との連携、かかりつけ医との連携、ケアマネージャーとの連携など地域医療介護連携を重視しています。病院退院時には退院前担当者会議を開催してケアマネージャーや在宅医療との顔の見える連携を実施していただきます。</p> <p>定期的に地域のケアマネージャーの方々に対して地域包括ケアに対する勉強会を開催しており、グループワークや講師を経験していただきます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本内科学会認定医制度教育関連施設

4.(施設名)国際医療福祉大学市川病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床制度の協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な医局図書室があります。 ・国際医療福祉大学市川病院勤務医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため臨床心理士によるメンタルヘルス相談室を開設しています。産業医も常駐しています。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合内科専門医が5名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の症例検討会(2014 年度実績 2 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、消化器、呼吸器、神経、糖尿病・代謝内科及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。</p>
指導責任者	<p>大平善之(総合診療科部長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院では消化器・呼吸器・神経・糖尿病代謝・総合診療・循環器領域などの専門医による疾患を診断から治療まで行っています。消化器領域では上部下部内視鏡治療を専門として技術の習得及び消化器がん症例の経験ができます。呼吸器領域では肺がん・間質性肺炎・感染症・肺炎・睡眠時無呼吸などの症例が経験できます。また、急性期医療と在宅医療を繋ぐ役割を担っています。糖尿病代謝内科には、糖尿病専門とホルモン関連を専門とする医師がいます。総合診療科としては専門医がいるため外来診療からその診断プロセスを学ぶことが可能です。</p> <p>内科専門医として、必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」、治す医療だけではなく「支える医療」、「医療と介護の連携」についても経験できます。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本老年医学会専門医 1 名 日本腎臓学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 288 名(1 ヶ月平均) 入院患者 195 名(1 ヶ月平均)
病床	260 床 〈一般病棟 137 床、回復期リハビリテーション病棟 34 床〉 〈療養病棟 44 床、結核病棟 45 床〉
経験できる疾患群	呼吸器領域、消化器、神経、糖尿病・代謝性疾患、総合診療、環器疾患などの症例を経験することができます。また、高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。
経験できる技術・技能	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。とくに、肺結核に関しては千葉県内専門施設であるため十分な経験が accrues。
経験できる地域医療・診療連携	当院は医師、看護師、介護士、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、MSW による多職種連携を実践しています。質の高いチーム医療における医師の役割を研修します。 また、急性期・回復期(回復期リハビリテーション病棟)・慢性期(医療療養病棟)・在宅(訪問リハビリ・通所リハビリテーション)を有し、切れ目のない医療提供連携も研修します。さらには急性期病院との連携、かかりつけ医との連携、ケアマネジャーとの連携など地域医療介護連携を重視しています。病院退院時には退院前担当者会議を開催してケアマネジャーや在宅医療との顔の見える連携を実施していただきます。定期的に地域のケアマネジャーの方々に対して地域包括ケアに対する勉強会を開催しており、グループワークや講師を経験していただきます。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医制度教育関連施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

5.(施設名)国際医療福祉大学成田病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<p>・初期臨床制度の協力型臨床研修指定病院(予定)です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・国際医療福祉大学成田病院勤務医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため臨床心理士によるメンタルヘルス相談室を開設しています。 ・ハラスメント委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内に保育室があり、利用可能です。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医が15名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療します。 ・70 疾患群のうち 65 疾患群以上(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>中世古 知昭 【内科専攻医へのメッセージ】2017 年 4 月に千葉県成田市に国際医療福祉大学医学部が開設しました。国際医療福祉大学成田病院は国際医療福祉大学の 6 つ目の附属病院として、2020 年 4 月に成田市に開院致します。当院は最新医療機器と充実したアメニティを備え、高度急性期医療に対応するとともに、地域医療機関と連携して地域医療に貢献致します。さらに東南アジアを中心に海外とのネットワークの拠点となり、国内外の患者へ最先端の医療を提供する世界基準のハブ病院をめざします。内科系の全ての診療科で多くの指導医が揃い、他の 5 つの附属病院や関連病院とも連携して充実した内科専門研修を受けることが出来ます。当院での内科専門研修を通じて、地域連携、救急医療から、国際的視野に立つ医療まで、内科専門医として必要な技能、経験を幅広く身に付けて頂きたいと思います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 7 名 総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会専門医 4 名、日本消化器内視鏡専門医 3 名 日本血液学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名 日本神経学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名 日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本老年医学会専門医 1 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	

病床	642 床(一般 600 床、精神 40 床、感染 2 床)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域(全領域)、65 疾患群以上の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、地域に密着し、超高齢社会に対応した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本神経学会認定教育施設 日本高血圧学会教育認定施設Ⅰ 日本リウマチ学会教育施設

6.(施設名)富士市立中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・富士市立中央病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(病院総務課)があります。 ・ハラスメントに対処する部署、委員会が病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 10 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2015 年度実績 10 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(予定)に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行うし、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の内科の領域別カンファレンスを、地域の病院と合同で年間 40 回程度開催し、専攻医の受講を促進、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行います。 ・治験管理委員会を設置し、随時に受託研究審査会を開催します。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	笠井 健司 【内科専攻医へのメッセージ】 富士市立中央病院は、静岡県東部医療圏の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの連携施設として、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	総外来患者（実数）39,149 名 総入院患者（実数）9,162 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会準教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設

7.（施設名）JCHO湯河原病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット環境と定期購読雑誌を含む図書館 ・JCHO の規定に則る福利厚生 ・家族居住も可能な宿舍設備の完備 ・病院敷地内の院内保育所 ・女性専用の居室や更衣室の完備
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科指導医は1名在籍 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・院内で内科系症例検討会を毎週実施。また、小田原市立病院、小田原医師会、国際医療福祉大熱海病院、足柄上病院らと症例検討会や研修会を適宜開催している。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科領域 13 分野のうち、血液と神経を除く分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。当院で経験困難な分野は院外の症例検討会や勉強会で研鑽に努めている。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を備え基礎研究に興味があれば国内外の著名研究機関を紹介可能である。 ・倫理委員会を設置し随時開催（2015 年度実績 3 回）している。 ・治験管理室を設置し受託研究審査会を随時開催している。 ・国内外の学会に参加の機会があり、また国内外の専門誌への投稿を指導・支援する。
プログラム責任者	岩田哲史

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>JCHO 湯河原病院は西湘地域に位置する中規模病院で、地域の高齢化を反映して様々な疾病を複数有する高齢患者が多い。必然的に総合的な視点で診療する態度と能力が養われる。一方で伝統的にリウマチ膠原病患者が多く集められ、リウマチ膠原病の専門的な知識と考え方治療を深く学ぶことができる。内科全般を広く学びつつ、深く考えることを希求する医師には絶好の環境である。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1 名 日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名 日本プライマリケア連合学会プライマリケア指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 29,544 名 (年間) 入院患者 2,862 名 (年間)
経験できる疾患群	ほぼ全ての領域を経験できますがリウマチ・膠原病の比重が高い。
経験できる技術・技能	実際の症例に則して内科専門医に必要な手技・技能を広く経験できる。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	一般急性期診療に加え西湘地域の高齢化を反映した地域医療を経験できる。小田原市立病院、東海大附属病院、国際医療福祉大熱海病院といった周辺の高次医療機関と密に医療連携を取りあっている。
学会認定施設 (内科系)	日本リウマチ学会

8.(施設名)神奈川県立足柄上病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1)専攻医の環境</p>	<p>初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・神奈川県立病院機構医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメント委員会(機構本部コンプライアンス室が扱う)が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・院内保育所があり、利用可能である。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2)専門研修プログラムの環境</p>	<p>指導医が 7 名在籍している(下記)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2015 年度実績 医療倫理 0 回(2016 年度 1 回)、医療安全 23 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス(2018 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に行う(2014 年度実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績 3 回)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験 の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動 の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備している。 倫理委員会を設置し、定期的を開催(2015 年度実績 10 回)している。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2015 年度実績 5 回)している。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2015 年度実績 2 演題だが、関連学会にその他に 4 演題を発表)をしている。
指導責任者	<p>加藤佳央</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>神奈川県立足柄上病院は、神奈川県立病院機構の 5 病院唯一の総合病院として、機構の他病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科と協力病院とが連携して、内科医を養成するものです。また、高度の診断能力を有し、患者および患者家族のニーズを満たす適切なマネジメントを遂行可能で医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的としています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 4768 名(1ヶ月平均) 入院患者 3260 名(1ヶ月平均延数)</p>
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医教育関連施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本がん治療認定機構認定研修施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設</p> <p>日本神経学会専門医制度准教育施設</p>

	日本高血圧学会専門医認定施設
	日本アレルギー学会教育施設
	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
	日本肝臓学会認定関連施設
	日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修施設など

9.(施設名)横浜労災病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署(総務課)、産業医がおります。 ・ハラスメントについては、相談員(男女各1名)を置き、職員の相談に対応しており必要に応じ職員相談委員会を開催する体制が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。 ・敷地内に院内保育所を整備しています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が25名在籍しています。 ・医師臨床研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医にも受講を義務付けます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC を毎年院内で開催しています。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会のほか、内科系各分野の学会での学会発表を行っており、日本内科学会での発表2, 内科系学会での発表は50にのぼります。論文発表も英文誌を含めて行っています。専攻医には年1回以上の学会発表をするよう指導しており、論文発表の指導も行っています。
指導責任者	<p>責任医師名 永瀬 肇</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】 横浜労災病院は独立行政法人労働者健康安全機構が設置、運営する病院であり、労災疾病の診療、研究、勤労者医療の展開を行うとともに、横浜市北東部中核医療施設として救急診療、高度医療、がん診療、小児医療、産科医療における大きな役割を担っています。内科系のすべての領域において初診から診断、治療に至るまでの高い専門性を有する診療が行われており、また安全、倫理、感染、内科救急などの研修機会も整っています。そして、内科専門研修のために何よりも重要なことは、よ</p>

	り多くの症例を優れた指導体制の下に経験することであり、当院は専攻医が充実した専門研修ができる環境を用意しています
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医25名、日本内科学会専門医12名、総合内科専門医28名 日本消化器病学会専門医5名、日本消化器内視鏡学会専門医3名、 日本循環器学会専門医8名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本肝臓学会専門医2名、日本呼吸器学会専門医3名、 日本腎臓学会専門医2名、日本内分泌学会専門医3名、 日本血液学会専門医3名、日本神経学会専門医5名 日本リウマチ学会専門医3名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医2名 日本心療内科専門医3名、日本救急医学会救急科専門医12名、ほか
外来・入院患者数	外来患者数19,856名(内科系診療科のみの1ヶ月平均) 新入院患者数593名(内科系診療科のみの1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療、最新医療、臨床研究を体験しつつ内科専門医に求められる患者中心の標準治療を習得し、地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定脳卒中教育施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本腎臓学会研修施設

	<p>日本透析医学会教育関連施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本アレルギー専門医教育施設</p> <p>日本がん治療認定研修施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本高血圧学会認定教育施設</p> <p>日本肥満学会認定肥満症専門病院</p> <p>日本心身医学会研修診療施設</p> <p>日本心療内科学会研修施設(基幹研修施設)</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本感染症学会研修施設</p> <p>日本胆道学会認定指導施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設</p> <p>日本カプセル内視鏡学会認定施設</p> <p>など</p>
--	---

10.(施設名)横須賀市立市民病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)がある。 ・ ハラスメント委員会が横須賀市立市民病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、0 歳児からの保育を含め利用可能である。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 8 名在籍している。

2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2015 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 11 回、感染対策 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に行う(2016 年度実績 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(2016 年度実績 1 回)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2016 年度実績 1 演題)をしている。Subspeciality 関連学会での発表も積極的に行っていく。
指導責任者	<p>小松 和人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>横須賀市立市民病院は、三浦横須賀地区の中核病院として、三浦半島の西南部の医療を担っています。市中病院として、内科全科に専門医が在籍し、豊富なコモディティーズを経験することができます。また、病病連携や病診連携等を通して、地域医療を学ぶことも目的としています。</p> <p>単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 8 名(うち日本内科学会総合内科専門医 8 名)</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、</p> <p>日本内分泌学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、</p> <p>日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、</p> <p>日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、</p> <p>日本アレルギー学会専門医(内科)1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、</p> <p>日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 0 名、</p>
外来・入院 患者数	外来患者 14,396 名(1 ヶ月平均) 入院患者 421 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設、</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、</p> <p>日本心血管インターベンション学会研修施設、</p> <p>日本呼吸器学会専門医認定施設、</p> <p>日本腎臓学会専門医研修施設、</p> <p>日本透析医学会認定制度教育関連施設、</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設、</p> <p>日本血液学会専門医制度血液研修施設、</p> <p>日本神経学会専門医制度認定准教育施設、</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育施設、</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設、</p> <p>日本リウマチ学会専門医制度認定教育施設、</p> <p>日本精神神経学会専門医制度研修施設、</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設、</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設、</p> <p>など</p>

11.(施設名)横浜市立大学附属病院

認定基準	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 24】	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1)専攻医の環境	<p>・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。</p> <p>・ メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。</p> <p>・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。</p> <p>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</p>

	・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 81 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 129 回、感染対策 32 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2018 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2015 年度実績 24 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績 1 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 21 演題)をしています。
指導責任者	前田 慎 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合内科専門医 49 名、日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,655 名(1 ヶ月平均) 入院患者 4,545 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携

療・診療連携	を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペースティング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 スtentグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

12.(施設名)横浜市立大学附属市民総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 40 名在籍しています(下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修や e-Learning の利用により定期開催(2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2015 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績 40 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 2 演題)をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>田中克明</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 40,608 名(1 ヶ月平均) 入院患者 19,878 名(1 ヶ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本救急医学会指導医指定施設 救急科専門医指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本アフェレンス学会認定施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 NST稼働施設 日本救急撮影技師認定機構実地研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本急性血液浄化学会認定施設 など</p>

13.(施設名)横浜南共済病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する医師(産業医)が常勤している。 ・ 院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所が整備されている。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 19 名在籍している(下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2017 年度実績 安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2019 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催(2017 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス(金沢区 CPC、消化器疾患 内科・外科・病理カンファレンス、神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会、呼吸器疾患医療連携セミナーなど 各科および複数科合同で計 10 回程度)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2017 年度実績 4 演題)をしている。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>小泉晴美</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>横浜南共済病院は神奈川県横浜南部医療圏の急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医(内科)3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10,836 名(1ヶ月平均) 入院患者 7,276 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ICD/両室ペースティング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設

	<p>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>など</p>
--	---

14.(施設名) 関東労災病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。 ・関東中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(メンタルヘルスセンター)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全講習会を(2024 年 15 回)、感染対策講習会を(2024 年 2 回)開催しています。専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(城南地区合同カンファレンスなど)を定期的に開催しています。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で専門研修が可能な症例を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2024 年度実績 7 件)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2024 年度実績 2 演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>指導責任者: 中込 良</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>関東中央病院は、全国に 8 施設ある公立学校共済組合設置の病院の一つで、東京都内の大学病院、関連病院と連携し、人材の育成や地域医療に貢献してまいりました。本研修プログラムは、全人的、臓器横断的な内科医療の実践に必要な知識と技能の習得のみならず、高い倫理観と社会性を備えた内科専門医の育成を目指します。また同時にリサーチマインドを育み、医学の進歩に貢献し、将来の日本の医療を担う医師の養成も目的とします。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、</p>

	日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)0 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 6,405 名(内科 1 ヶ月平均)入院患者 4,299 名(内科 1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて希な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 血液、膠原病分野の入院症例はやや少ないものの、外来症例を含め十分な症例の経験が可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携が経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本呼吸器学会認定医制度認定施設(内科系) 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度修練施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定指定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修基幹施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 など

15.(施設名)平塚市民病院

認定基準	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師として採用され、安定した身分保障および労務環境が整えられています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります。 ・ ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、週 2 日は24時間利用可能です。
認定基準	・ 内科学会指導医が 17 名在籍しています。

<p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2017 年度実績 医療倫理 4 回, 医療安全 11 回, 感染対策 14 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2020 年度予定)を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ CPC を定期的に開催(2017 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ 地域参加型のカンファレンス(2017 年度実績 6 回, 全診療科含め 22 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <p>また、血液、リウマチ膠原病・アレルギーについても非常勤医師の指導の下、外来入院診療を行っています</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2017 年度実績 3 演題)をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>厚川 和裕</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で、専攻医は自治体病院常勤医師として安定した身分が保証されています。</p> <p>高度急性期、急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで、市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます。</p> <p>平成 28 年度に新棟がオープンし、ゆったりとした外来・病棟、最新の設備を備えた救命病床や ICU/CCU、外来化学療法室・透析室・手術室、広いリハビリ室などが新棟内に設置されます。また 320 列 CT や IVR-CT などの先進機器に加えて、新棟開設に伴い最新鋭のリナックも設置され、県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制も整っています。</p> <p>内科の広範な診療を支えるため、主な領域には常勤指導医がおり、また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます。放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており、救急医療に関しては地域の二次救急輪番制の中心病院として高度急性期疾患にも対応できるよう、ER 専門医も配置され指導を受けることが出来ます。</p> <p>さまざまなカテゴリーの内科疾患を一症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる、充実した専門医研修を目指しています。</p>
<p>指導医数</p>	<p>日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名</p>

(常勤医)	<p>日本消化器病学会消化器専門医 3 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名</p> <p>日本内分泌学会専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名,</p> <p>日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名,</p> <p>日本血液学会血液専門医 0 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名,</p> <p>日本アレルギー学会専門医 2 名, 日本リウマチ学会専門医 0 名,</p> <p>日本感染症学会専門医 0 名, 日本救急医学会救急科専門医 3 名, ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 18,718 名(1ヶ月平均) 入院患者 353 名(1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群のうち, かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>高度急性期, 急性期医療のほか, 回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療, さらに高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p>

	<p>日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設</p> <p>日本 IVR 学会専門医修練施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本脳神経学会専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会教育関連施設</p> <p>日本アレルギー学会専門医制度教育研修施設</p> <p>厚生労働省指定臨床研修病院 など</p>
--	--

16.(施設名) 済生会横浜市東部病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<p>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</p> <p>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</p> <p>・済生会横浜市東部病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</p> <p>・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります。(希望があれば院内の心理士や精神科医師の受診や相談も可能です)</p> <p>・ハラスメント委員会が済生会横浜市東部病院内に整備されています。</p> <p>・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</p> <p>・敷地より徒歩 10 分の院内保育所が利用できます。病児保育、病後児保育は院内で対応しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医は 24 名在籍しています(下記)。</p> <p>・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(院長補佐)、プログラム管理者(消化器内科部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医); 専攻医研修室にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</p> <p>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科研修委員会と専攻医研修室が設置されています。</p> <p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2017 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2019 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・CPC を定期的に開催(2017 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンス(基幹施設: 2017 年度実績 43 回; 横浜市東部地域循環器カンファレンス(年 3 回)、胸部疾患研究会(年 10 回)、神奈川区鶴見区東部病院消化器病勉強会(年 11 回)、横浜東部脳卒中連携の会(年 1 回)、神奈川東部脳卒中連携の会(年 2 回)、横浜東部地区緩和ケア研究会(年 4 回)、横浜東部地区腎疾患カンファレンス(年 1 回)、糖尿病カンファレンス(年 3 回)、病診連携の会(年 2 回)、総合内科勉強会(年 6 回))を定期的に開催し、専攻医に必要な</p>

	<p>場合、専攻医の希望がある場合は、受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2018 年 1 回開催)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修室が対応します。</p> <p>・連携病院での専門研修では、電話や週 1 回の済生会横浜市東部病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修状況の把握と必要があれば指導も行います。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<p>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。</p> <p>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。</p> <p>・専門研修に必要な剖検(2016 年度実績 15 体、2017 年度 11 体)を行っています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究に必要な図書室やインターネットでの文献検索環境、統計処理のためのコンピューター、ポスター作製のためのコピー機などを整備しています。</p> <p>・倫理委員会を設置し、定期的開催(2017 年度実績 5 回)しています。</p> <p>・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催(2017 年度実績 11 回)しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 9 演題以上の学会発表(2017 年度実績 7 演題)をしています。内科学会関東地方会の幹事病院です。内科学会以外の内科専門分野の学会活動も活発で、海外の学会を含め、年間 100 題以上発表しています。専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</p>
指導責任者	<p>比嘉真理子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>済生会横浜市東部病院は、横浜市の中核病院であり、救命救急センターなどを中心とした急性期医療や高度専門医療を中心に提供する病院です。救命救急センターと総合診療センターでは内科医が経験すべき高度な救急疾患から common disease に至るまで豊富な症例を診療しています。地域がん診療連携拠点病院でもあり、がん診療にはサイバーナイフやロボット手術などの先進的な医療機器を備えて最新の医療を行っています。二人主治医制や連携パス導入などの病診連携にも積極的に取り組み地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える全人的医療を実践できる内科専門医を育成することを目的としています。</p> <p>内科専門研修3年修了後、大学病院での勤務や大学院進学を希望する場合は、済生会横浜市東部病院が協力施設となっている、東邦大学、横浜市立大学、日本医科大学、慶應大学へ推薦することができます。</p>
指導医数	日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名

(常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本肝臓病学会専門医 3 名
外来・入院患者数(延べ)	外来患者 22,244 名(1 ヶ月平均) 入院患者 15,821 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本感染症学会連携研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本救急医学会指導医指定施設など

17.(施設名)横浜医療センター

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 国立病院機構横浜医療センター非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(厚生係担当)があります。 ・ セクハラメント苦情に対して管理課長が窓口となり幹部会議に図られています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 14 名在籍しています(下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修部を設置しました ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2015 年度実績 30 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2019 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う(2017 年度実績 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績 横浜藤沢消化器疾患研究会 5 回、横浜市南西部 CKD 病診連携研究会 1 回など)を定期的に行う、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・ 専門研修に必要な剖検(2015 年度実績 8 体、2014 年度 13 体)を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2017 年度実績 3 演題)を予定しています。
<p>指導責任者</p>	<p>高橋 竜哉</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構横浜医療センターは神奈川県横浜市南西部医療圏の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの基幹施設として内科専門研修を行うと同時に横浜市立大学附属病院および附属市民総合医療センター、東京女子医科大学病</p>

	院、茅ヶ崎市立病院、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、国立病院機構東京医療センター及び災害医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本感染症学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者 数	外来患者 5,989 名(1ヶ月平均) 入院患者 396 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ICD/両心室ペーシング植え込み認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ステントグラフト実施施設、 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

	<p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本肥満学会認定肥満症専門病院</p> <p>など</p>
--	---

18.(施設名) 済生会横浜市南部病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 済生会横浜市南部病院シニアレジデント医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります。 ・ ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 10 名在籍しています(下記)。 ・ 内科専門研修プログラム委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2017 年度実績 医療倫理 1 回(複数回開催)、医療安全 7 回(各複数回開催)、感染対策 11 回(各複数回開催))し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2019 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催(2017 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(2017 年度実績 地域連携研修会 6 回などを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。 ・ 特別連携施設(港南台病院)の専門研修では、電話や週 1 回の済生会横浜市南部病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

	<p>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます</p> <p>・専門研修に必要な剖検を行っています(2015 年度 19 体, 2016 年度 14 体, 2017 年度 15 体)</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究が可能な図書室などが整っています。</p> <p>・医療倫理委員会を設置し開催されています。</p> <p>・臨床教育センター(臨床教育センター運営委員会年 4 回)や治験事務局(治験審査委員会年 12 回)が設置されています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 5 演題)を予定しています。</p>
指導責任者	<p>川名 一 郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>済生会横浜市南部病院は横浜南部地域の基幹病院であり、急性期病院として専門的、先進的医療、救急医療における地域の中心的役割を果たしている。地域医療の充実とともに質の高い内科医の育成のため内科専門医制度プログラムの基幹施設としてまた藤沢市民病院を基幹施設とするプログラムの連携施設として内科専門研修を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 8,615 名(1 ヶ月平均) 入院患者 6,506 名(1 ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器病学会認定施設</p> <p>日本アレルギー学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設</p>

	<p>日本血液学会研修施設</p> <p>日本大腸肛門病学会認定施設</p> <p>日本環境感染学会教育施設</p> <p>日本がん治療認定医機構研修施設</p> <p>日本緩和医療学会研修施設</p> <p>日本高血圧学会認定施設</p> <p>日本甲状腺学会専門医施設</p> <p>日本心血管インターベンション学会研修施設</p> <p>日本病理学会研修認定施設 B</p> <p>日本臨床腫瘍学会研修施設</p> <p>など</p>
--	--

19.(施設名)湘南藤沢徳洲会病院

認定基準	・初期臨床研修制度 基幹型研修指定病院.
【整備基準 23】	・常勤医師として労務環境が保障される.
1)専攻医の環境	<p>・メンタルストレスに適切に対処する部署(施設内・徳洲会グループ)にあり. ・ハラスメント委員会は徳洲会グループに整備.</p> <p>・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されている.</p> <p>・施設内全域 Wifi 接続可</p> <p>・敷地内に 24 時間利用可能な院内保育所あり.</p> <p>・院内コンビニあり(24 時間利用可).</p>
認定基準	・ <u>指導医は 14 名在籍している(下記).</u>
【整備基準 23】	・専門研修プログラム管理委員会(内科)(統括責任者, プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医))にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る.
2)専門研修プログラムの環境	<p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2017 年度実績 12 回)</p> <p>・専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える.</p> <p>・CPC を定期的に開催(2017 年度実績 6 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのため</p>

	<p>の時間的余裕を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修施設合同カンファレンスを定期的に主催し、招へいカンファレンスに参加・発表を義務付けグローバルスタンダードな経験・知識を身につける。 <p>(Dr.Tierney,Dr.Dhaliwal, 青木眞先生, 徳田安春先生等, 年 12 名前後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内カンファレンス(ワシントンマニュアルカンファレンス等)を毎週開催し、専攻医に受講・時によって発表を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2015 年度開催実績 1 回:受講者 5 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応する。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2016 年度 12 件, 2017 年度 10 件)を行っている。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・UPTODATE・Dynamed・Medical Online 等は法人で契約しており、すべて無料で利用可能。 ・臨床研究に必要な図書室(医学情報センター)を整備。専任の図書司書が 2 名常駐, 24 時間利用可能である。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会, 医師主導型臨床研究を開催している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2017 年度実績 6 演題)をしている。
指導責任者	<p>【内科専攻医へのメッセージ】松井 圭司</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会の必然として、複数疾患を有する高齢者への対応は内科専門医として必須の臨床能力となるが、当院でのローテーション修了後には複雑な疾患・病態を有

	<p>する患者への対応能力は確実に磨かれる。</p>
後期研修医	<p>【後期研修医からのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科・総合内科 (general medicine: GM) では、各領域の疾患を万遍なく経験する。Common disease, uncommon disease, challenging case, いずれも幅広く経験する。心不全、腎不全、呼吸器、脳卒中、血液疾患、膠原病、肝硬変など、各領域において軽症から最重症まで経験する。感染症では、誤嚥性肺炎、尿路感染症もあれば、感染性心内膜炎や化膿性脊椎炎や細菌性髄膜炎も珍しくない。 ・診断や管理が困難な例を数多く能動的に担当する。Challenging case が「GM」の専門領域の1つともいえる。「断らない病院」である限り、その症例数には事欠かない。「断らない」というマインドが generalist の必須のスタンスであるということ、地域のニーズを満たす医療の実践は speciality 以上に generality が重要であることを実感する。 ・Challenging caseの中には診断困難例も数多く、あらゆる診断手法や診断ストラテジーを学ぶモチベーションに溢れている。管理困難な症例も多く、ICUにおける人工呼吸器管理や血液浄化を含む包括的な管理が必要な場合や、数多くの社会的問題を抱えた症例など内容は多岐にわたる。病態管理のみならず文字通り全人的な管理の中心的な存在・調整役として活躍する。また、カンファレンスの質や量も豊富で学ぶ機会に恵まれている。 ・院内における役割としては、注目されている Hospitalist に相当する。必要に応じて specialist の技術や知識を借りるため相談し、あるいは他診療科担当症例であっても、必要に応じて積極的に参加、担当、介入する。 ・診療現場は同時に教育の現場でもあり、教育する機会も多く、その際にむしろ自らが学ぶことも多い。
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、</p> <p>日本消化器病学会認定消化器病専門医 5 名、</p> <p>日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)2 名、</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医 1 名、</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 1 名、</p> <p>日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、</p>

	<p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名,</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 1 名,</p> <p>日本肝臓学会認定肝臓専門医 4 名, 日本神経学会専門医 2 名,</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 4 名ほか</p>
外 来・入 院 患 者 数	<p>内科外来平均患者(1 日) 367.5 名</p> <p>内科入院平均患者(1 日) 25.5 名</p>
経験できる疾患 群	<p>きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。</p>
経験できる技術・ 技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。</p>
経験できる地域 医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できる。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会 認定教育施設</p> <p>日本消化器病学会 認定施設</p> <p>日本循環器学会 循環器専門医研修施設</p> <p>日本内分泌学会 認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会 研修施設</p> <p>日本呼吸器学会 認定施設</p> <p>日本神経学会 専門医制度教育施設</p> <p>日本アレルギー学会 認定教育施設(内科)</p> <p>日本糖尿病学会 認定教育施設</p> <p>日本肝臓学会 認定施設</p> <p>など</p>

20.(施設名)秦野赤十字病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医制度基幹施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・秦野赤十字病院の職員としての労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルス相談室が設置されており、担当医師に相談できる環境があります。 ・ハラスメント防止規程があり、院内に4名の相談員がいます。 ・専攻医が利用できる、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が9名在籍しています。 ・医療安全研修会・感染管理研修会が開催されており、専攻医にも受講を義務付けています。2018年度はそれぞれ6回開催し、受講できなかった者はDVDでの受講もできます。 ・CPCを開催し、専攻医に受講を義務付けています。(2018年度実績2回) ・地域参加型のカンファレンスとして、地域医療連携懇話会を実施しています、専攻医も出席しています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科領域のうち、消化器、循環器、腎臓、神経分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・2018年度の剖検数は2件です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国内で開催される各学会への出席が可能です。
<p>指導医数</p> <p>(常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医4名、日本内科学会総合内科専門医7名、</p> <p>日本消化器病学会消化器病専門医6名、日本肝臓学会肝臓専門医1名、</p> <p>日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医5名、</p> <p>日本循環器学会循環器専門医2名、日本糖尿病学会糖尿病専門医1名、</p> <p>日本腎臓学会腎臓専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医1名、</p> <p>日本神経学会神経内科専門医1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 10,084 名(1ヶ月平均) 入院患者 5,941 名(1ヶ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>内科系疾患のさまざまな症例を、幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技</p>	<p>内科専攻医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが</p>

術・技能	できます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療を担う病院として、救急医療や継続的な医療、高齢者医療や緩和医療を赤十字理念に基づいて実施しています。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本透析医学会認定制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 など

21.(施設名)横浜栄共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する医師(産業医)が常勤している。 ・ 院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 11 名在籍している(下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2015 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的開催(2015 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

	・地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績 計 20 回程度)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 5 演題)をしている。
指導責任者	道下 一朗 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜栄共済病院は神奈川県横浜南部医療圏の急性期病院であり、協力病院と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 20669 名(1 ヶ月平均) 入院患者 774 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本高血圧学会認定施設</p> <p>日本動脈硬化学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設</p> <p>日本呼吸器学会専門医認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本透析医学会認定教育関連施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>腹部ステントグラフト実施施設</p> <p>胸部ステントグラフト実施施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設認定</p> <p>日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>日本病理学会研修登録施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>など</p>
-----------------	--

22. さがみ林間病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専門医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内に研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・適切な労働環境の保障がされています。 ・メンタルストレスに対処する部署の整備がされています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>指導医が6名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型の症例検討会を定期的に行っています。

認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	東芝林間病院においては5つの内科系診療科があり、(総合内科を含む)消化器、循環器、代謝、腎臓、神経および救急分野を中心に、幅広く診療を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学会活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等学会発表をしています。
指導責任者	福田直人 【内科専攻医へのメッセージ】 当院における診療実績は、2021 年度内科入院患者実数は 1400 前後、外来患者数は 14000 前後で、十分な症例数を経験する中で、診断、精査(合併症の評価)、治療、患者教育、療養指導についての理解を深めることが期待できます。
指導医数 (常勤日本透析医学会透析指導医)	日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本腎臓学会認定指導医 2 名、専門医 2 名、日本病態栄養学会専門医 1 名、日本糖尿病協会療養指導医 1 名、日本内分泌学会認定内分泌代謝科指導医 1 名、日本糖尿病学会研修指導医 1 名、内科臨床研修指導医 1 名、日本高血圧学会高血圧専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名、日本消化器病学会消化器病指導医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本不整脈学会日本振心電学会認定不整脈専門医 1 名、日本心血管インターベンション学会指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 9,500 名(1ヶ月平均) 入院患者 285 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した 疾患を中心に、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	領域の診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本透析医学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ

2 3. 茅ヶ崎市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 茅ヶ崎市非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(職員課健康衛生担当)があります。 ・ ハラスメント対策委員会が茅ヶ崎市役所に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
--------------------------------	--

	・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 19 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2021 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う(2021 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2021 年度実績 茅ヶ崎内科医会症例検討会 3 回、救急症例検討会 3 回)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 6 演題)を予定しています。
指導責任者	栗山 仁 【内科専攻医へのメッセージ】 茅ヶ崎市立病院は神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、茅ヶ崎市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 17,532 名(1 ヶ月平均) 入院患者 9,179 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など

24. 国立病院機構横浜医療センター

認定基準	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 24】	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	・ 国立病院機構横浜医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(厚生係担当)があります。 ・ セクハラ・セクハラ苦情に対して管理課長が窓口となり幹部会議に図られています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 12 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修部を設置しました ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015 年度実績 30 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2019 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2019 年度実績 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績 横浜藤沢消化器疾患研究会 5 回、横浜市南西部 CKD 病診連携研究会 1 回など)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度実績 11 体、2018 年度 13 体、2019 年度 11 体、2020 年度 9 体)を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2019 年度実績 3 演題)を予定しています。
<p>指導責任者</p>	<p>井畑 淳</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構横浜医療センターは神奈川県横浜市南西部医療圏の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの基幹施設として内科専門研修を行うと同時に横浜市立大学附属病院および附属市民総合医療センター、東京女子医科大学病院、茅ヶ崎市立病院、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、横浜労災病院、藤沢湘南台病院、国立病院機構東京医療センター及び災害医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
<p>指導医数</p> <p>(常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名、</p> <p>日本腎臓病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、</p>

	日本感染症学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 5,989 名(1 ヶ月平均) 入院患者 436 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>ICD/両心室ペーシング植え込み認定施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>ステントグラフト実施施設、</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本高血圧学認定研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本神経学会准教育施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本肥満学会認定肥満症専門病院</p> <p>など</p>

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・当院専攻医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する健康管理室があります。 ・ハラスメント委員会が当院に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 11 名在籍しています。(2023 年度) ・初期および専門医研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2022 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 1 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催(2022 年度実績 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2022 年実績 1 回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2022 年度開催実績 1 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域のうち、総合内科、呼吸器、消化器、循環器、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2022 年度実績 2 演題)をしています。 ・臨床研究に必要な図書室、電子ジャーナル等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的(2021 年実績 12 回)を開催しています。
<p>指導責任者</p>	<p>・岩澤 孝昌</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>横須賀市立総合医療センターは地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています。また、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器科専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会認定専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 7 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 484.9 名(1ヶ月平均) 入院患者 262.0 名(1ヶ月平均) ※2022 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本病院総合医診療学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ほか

26. 新百合ヶ丘総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・新百合ヶ丘総合病院内科研修医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院に関連する保育施設があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科指導医は 32 名在籍しています（2024 年 4 月現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器・肝臓病研究所所長）、プログラム管理者（消化器内科部長）が、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（年計 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群の一部で合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（新百合ヶ丘病診連携の会；年 2 回、川崎北部 心臓血管病フォーラム；年 1 回、新百合ヶ丘循環器フォーラム；年 1 回、新百合ヶ丘イブニングカンファレンス；年 1 回、新百合ヶ丘がんセミナー；年 1 回など）を定期的に行っていますが、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催を予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 3 体、2023 年度 3 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、カンファレンスルームなどを整備しています。 ・研修医専用の研修医室があります。 ・倫理委員会を設置し、年 1-2 回開催しています。 ・治験管理室を設置しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に 2023 年度に計 1 演題の学会発表をしています。内科専攻医の内科系学会での発表数は 6 演題です。

指導責任者	<p>篠崎 倫哉</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>新百合ヶ丘総合病院は、神奈川県川崎北部医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に診療します。診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医/内科専門医 29 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 12 名、日本循環器学会専門医 6 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 3 名、</p> <p>日本神経学会専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、</p> <p>日本内分泌学会専門医 1 名、ほか</p>
外来・入院患者数	2023 年 総外来患者 334,127 名、総入院患者 187,127 名(のべ)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設</p> <p>日本脈管学会認定研修関連施設</p> <p>日本呼吸器学会関連施設</p> <p>日本神経学会教育施設</p> <p>日本脳卒中学会研修教育病院</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設</p> <p>日本病院総合診療医学会認定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>など</p>

2025 年 4 月現在

4.プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を国際医療福祉大学熱海病院に設置し，その委員長と各内科から1名ずつ管理委員を選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き，委員長が統括します。

2) 指導医一覧

別紙参照。

5.各施設での研修内容と期間

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて①内科基本コース，②各科重点コース，の2つを準備しています。（別表2参照）

Subspecialty が未決定，または総合 Subspecialty が未決定，または総合内科専攻医は各内科学部門ではなく，3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを3ヵ月毎にローテートします。将来の Subspecialty が決定している専攻医は各科重点コースを選択し，各科を原則として2ヵ月毎，研修進捗状況によっては1ヵ月～3ヶ月毎にローテーションします。

基幹施設である国際医療福祉大学熱海院での研修が中心になるが，関連施設での研修は必須であり，原則1年間はいずれかの関連施設で研修します。連携施設では基幹病院では経験しにくい領域や地域医療の実際について学ぶことができます。

6.主要な疾患の年間診療件数

内科専門医[研修カリキュラム](#)に掲載されている主要な疾患については，国際医療福祉大学熱海病院（基幹病院）のDPC病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数（H28年度）を調査し，ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています（一部の疾患群は外来での経験を含めるものとします）。ただし，研修期間内に全疾患群の経験が十分にできるように誘導する仕組みも必要であり，初期研修時での症例をもれなく登録すること，外来での疾患頻度が高い

疾患群を診療できるシステム(外来症例割当システム)を構築することで必要な症例経験を積むことができます。

7.年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

3) 内科標準コース

高度な総合内科(Generality)の専門医を目指す場合や、将来の Subspecialty が未定な場合に選択します。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、後期研修期間の3年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として3ヵ月を1単位として、1年間に4科、2年間で延べ8科をローテーションし、2年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

5) サブスペシャルティ重点研修コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。1年間または2年間で希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います。この期間、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への Motivation を強化することができます。原則として2年目の1年間に他科をローテーションします。研修3年目には原則1年間当該 Subspecialty 科において内科研修を継続し、Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがあります。あくまでも希望する Subspecialty 領域を重点的に研修することが主体であり、1年間または2年間で Subspecialty の重点期間に当てていきます。

また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決定します。

8.自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

9.プログラム修了の基準

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

10.専門医申請に向けての手順

日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」を用います。同システムでは以下を web ペースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から”専攻研修のための手引き”をダウンロードし、参照してください。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例:CPC, 地域連携カンファレンス, 医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席をシステム上に登録します。

11.プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、学校法人国際医療福祉大学の就業規則及び給与規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修管理委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12.プログラムの特色

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース、①内科標準コース、②サブスペシャリティ重点研修コース、を準備していることが最大の特徴です。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。また、外来トレーニングとしてふさわしい症例(主に初診)を経験するために外来症例割当システムを構築し、専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めることができます。

13.継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことがあります(各科重点コース参照)。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

14.逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

15.研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。

国際医療福祉大学熱海病院内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- ・1 人の担当指導医(メンター)に専攻医 1 人が国際医療福祉大学熱海病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床管理事務局からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリ内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・担当指導医は専攻医が専門研修(専攻医)2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- ・年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです。
- ・担当指導医は、研修管理委員会と協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリ内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・担当指導医は、研修管理委員会と協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

- ・担当指導医は、研修管理委員会と協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準.

- ・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
- ・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っているかと第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- ・主担当医として適切に診療を行っているかと認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) 日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」の利用方法

- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センター(仮称)はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」を用いて研修内容の評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」を用いた指導医の指導状況把握

- ・専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修管理委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、A 大学病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

- ・必要に応じて、臨時(毎年8月と2月とに予定の他に)で、日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)を行い、その結果を基に国際医療福祉大学熱海病院研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7)プログラムならびに各施設における指導医の待遇

学校法人国際医療福祉大学給与規定によります。

8)FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修(FD)の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム「J-OSLER」を用います。

9)日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を熟読し、形成的に指導します。

10)研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11)その他

特になし。

別表 1 各年次到達目標

	内容	カリキュラムに示す疾患群	専攻医 3 年修了時要件	専攻医 2 年修了時	専攻医 1 年修了時	※5 病歴要約提
分野	総合内科Ⅰ	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ	1	1※2	1		
	消化器	9	5 以上※1※2	5 以上※1		3※1
	循環器	10	5 以上※2	5 以上		3
	内分泌	4	2 以上※2	2 以上		3※4
	代謝	5	3 以上※2	3 以上		
	腎臓	7	4 以上※2	4 以上		2
	呼吸器	8	4 以上※2	4 以上		3
	血液	3	2 以上※2	2 以上		2
	神経	9	5 以上※2	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上※2	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上※2	1 以上		1
	感染症	4	2 以上※2	2 以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5			56 疾患群	45 疾患群		29 症例
		70 疾患群	(任意選択含)	(任意選択含)	20 疾患群	※3
症例数※5		200 以上 (外来は最大 20)	160 以上※5 (外来は最大 16)	120 以上	60 以上	

※ 1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※ 2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※ 3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※ 4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。例)「内分泌」2 例 + 「代謝」1 例, 「内分泌」1 例 + 「代謝」2 例

※ 5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表2

内科標準コース(例)

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	呼吸器			神経			腎臓			消化器		
	初診＋再診外来担当 プライマリケア/救急当直研修											
	1年目にJMECCを受講(プログラム要件)											
2年目	連携施設											
	初診＋再診外来担当											
	内科専門医取得のための病歴要約作成											
3年目	アレルギー・膠原病			循環器			内分泌・代謝			総合内科		
	初診＋再診外来担当 プライマリケア/救急当直研修											
その他要件	安全管理、感染管理講習の受講(年2回以上)、CPCの受講											

Subspecialty重点研修コース(2年型例)

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	希望診療科での研修											
	初診＋再診外来担当 プライマリケア/救急当直研修											
	1年目にJMECCを受講(プログラム要件)											
2年目	連携施設											
	初診＋再診外来担当											
	内科専門医取得のための病歴要約作成											
3年目	希望診療科での研修											
	初診＋再診外来担当 プライマリケア/救急当直研修											
その他要件	安全管理、感染管理講習の受講(年2回以上)、CPCの受講											

他科ローテーションについて	Subspecialty重点研修コースでは1年目、3年目を希望研修科で研修を行います。 2年目の連携施設での研修において特定の診療科に偏らず満遍なく診療科をローテートする。 ローテーションの順序は専攻医の意向と診療科の状況を勘案し、研修管理委員会で決定します。
その他	大学院への進学の場合も本コースにて対応します。大学院在籍時も通常の専攻研修と同じ内容が研修できる限りにおいてはその症例と経験実績が研修期間として認められます。